

地区懇談会結果を踏まえた「町民参加条例」のイメージ

1. 地区懇談会結果の振り返り

【旗揚げアンケート】

- ・地域活動やボランティア活動等への参加意識は高い。
- ・行政への関わり方は「住民参加で計画をつくり、住民と行政が協力して実施するべき」という考え方が最も多い。

【グループディスカッション】

- ・各地区はたくさんの課題を抱えている（各地区に共通する課題もあれば地区固有の課題もある）。
- ・そうした課題に対して、既に解決のための議論が繰り返されている。また、自主的な取り組みも行われている（各地区で取り組みの温度差はある）。
- ・行政任せの要望や、行政に対する不満も多い。

【全体ディスカッション】

- ・各地区の地域性は異なっている。
- ・行政に対する不信感がある（意見を求めるが聞きっぱなしでフィードバックがない等）。

【アンケート】

- ・参加者の町民参加に対する理解は深まっている。
よく理解できた（14%） まあまあ理解できた（66%）
- ・「住民の声が届きやすくするための方法」について尋ねた設問には、どの項目も重視する傾向が表れている。
情報提供（26%） 計画づくりからの参加（24%）
提案機会（23%） 重要事案の事前公表（25%）

2. 策定委員のコメント（抜粋）

- ・町民参加条例は、住民の皆さんの意見を活かす仕組み、まちが元気になる仕組み。
- ・地域活動やNPO活動が盛んなまち。さらなる参加（参画）の循環を向上させたい。
- ・条例は、総計の理念に基づく“みんな”で“まちづくり”に取り組むための制度・仕組みづくりでもある。
- ・住民と行政の不信感を崩し、いかにコミュニケーションを深めるか。それぞれの意識を高め活動を促すための条例へ。互いが一歩前に入る勇気を与えてくれるようなものへ。
- ・「NPO活動促進条例」でNPO団体はとても活動しやすくなった。活動を縛るのではなく、みんなが参加しやすく、活動が楽しくなるような条例を目指す。
- ・地区ごとに特徴があるが、旗揚げアンケートでは、住民と行政と一緒に計画・実施すべきという回答でほぼ一致している。
- ・各地区では既に自主的な活動が行われており、地区や分野を越え、そうした活動を応援できる要素を込めていくと大口らしい条例になるのではないかと。

3. 条例骨子に関連する参加者の主な意見（抜粋）

- ・会場に来られない人や子ども、中高生など、幅広い世代から声（想い）を拾うべき。
- ・住民参加を強制しないでほしい。
- ・どうやってみんなで取り組めるかが課題。
- ・自主的な活動の妨げにならないもの。自主的な活動を制限せず、支援策の準備を。

4. 大口町らしい町民参加条例のイメージ

(1) 町民参加条例の2つのポイント

参加（参画）だけでなく、協働の理念を盛り込むこと

第6次総合計画理念を条例で明文化。「NPO活動促進条例」の上位に位置づけるとともに、条例対象・内容を拡充する。

参加（参画）だけでなく、協働の方法（支援策を含む）を盛り込むこと

住民参加を促進するための仕組み（参加に関する仕組みの全て）

- ・地域（住民）の声（意見・提案）が行政に届けられ、それが施策・事業に反映される過程を見届けられる（フィードバックされる）仕組み

地域活動や協働を促進するための仕組み（協働に関する仕組みの一部）

- ・地域や活動分野を越え、地域の自主的な活動を応援できる仕組み

「NPO活動促進条例」だけでは、協働の対象が制限されている。



条例に基づく、制度構築と運用、事業の展開（支援策や協働事業等）により、
参加しやすく、楽しく活動できるまちづくりへ
そして、住民と行政の信頼感の醸成へ

図：町民参加条例の特徴

